

# 建築物の耐震性評価とその向上に関する一連の研究および

## 地震防災技術の普及に関する貢献

名誉会員 岡田恒男君

岡田恒男君は、1959年東京大学工学部建築学科を卒業、同大学院に進学後、東京都立大学助手、東京大学生産技術研究所講師、助教授、教授、同所長を経て、芝浦工業大学工学部建築工学科教授として、実に42年間教育・研究に従事した。この間、建築構造学、鉄筋コンクリート構造、地震防災等に関して、先見性に富んだ独創的な研究を行い数多くの有用な学術的業績をあげて建築耐震工学の発展に寄与した。また1999年～2001年の日本建築学会会長をはじめとして長年にわたり様々な学会活動を行い、研究分野の発展と本会の活動に大きく寄与するとともに、研究成果を社会に還元する制度設計や政策提言に関わり、国内外の災害軽減と防災力の向上に大きく貢献した。

同君は、日本建築学会会長、副会長、関東支部長以外にも構造委員会委員長、鉄筋コンクリート構造運営委員会主査、終局強度設計法小委員会主査、保有耐力と変形性能改定小委員会幹事、学校建築委員会「公立学校施設の耐震補強方法に関する調査研究小委員会」主査など数多くの委員会活動の主導的な役職を歴任し、40年以上にわたり本会の活動、発展に多大な貢献をした。特に「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」「建築耐震設計における保有耐力と変形性能(1990)」「鉄筋コンクリート造建物の終局強度型耐震設計指針・同解説」などの執筆および編集活動では中心的な役割を果たした。同君の主要な研究テーマである鉄筋コンクリート造建築物の耐震性評価とその向上に関する研究は、現在では国家的重要課題となっている「耐震診断」「耐震改修」という分野を切り開いた。これらに関する一連の研究成果は、日本建築防災協会刊行の「既存鉄筋コンクリート造建築建物の耐震診断基準」としてまとめられ、1981年には「鉄筋コンクリート造建物の耐震性の評価に関する研究」により日本建築学会賞(論文)を受賞している。さらに、これらの手法の普及にも力を注ぎ、特に1995年阪神・淡路大震災を契機とした耐震改修促進法の制定およびその後の全国規模での耐震化対策の展開の原動力となった。阪神・淡路大震災後に本会に設置された兵庫県南部地震特別研究委員会委員長として、本会による現地調査に基づいた建築および都市防災に関する提言を取りまとめた。

同君は、早くから震災後の対策の重要性も指摘し、地震によって被災した建物の応急危険度判定手法および被災度判定手法の開発と、その指導・普及に尽力し我が国のみならず、海外においても二次災害の防止に大きく貢献した。中央防災会議「東海地震対策専門調査会」では、座長を務め現在の東海地震対策の取りまとめを行った。

これらの一連の社会的貢献により1995年国土庁長官賞、1996年科学技術庁長官賞、1997年静岡県知事表彰、2004年内閣総理大臣表彰などを受賞している。現在も日本建築防災協会理事長として建築物の耐震化対策の推進に精力的に取り組むとともに、海外との共同研究プロジェクトなどを通して世界的な人脈を構築して若手研究者の育成に大きく貢献している。

以上のように同君は、長年わたる建築物の耐震性向上、既存建築物の耐震化に関して優れた研究業績をあげるとともに、幅広い学術研究活動および社会活動を通じて我が国のみならず海外の地震防災対策にも多大な貢献をしておりその功績は極めて顕著である。

よって、同君の功績に対して、ここに日本建築学会大賞を贈るものである。